

カメラマウントシステム

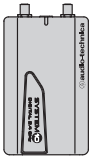
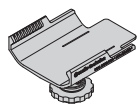
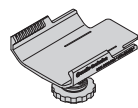
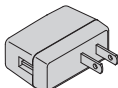
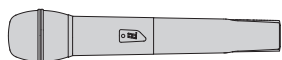
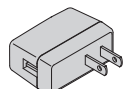
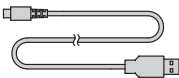
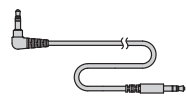
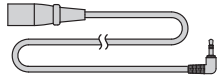
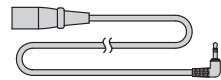
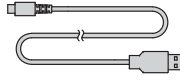
ATW-1701, ATW-1702

お買い上げありがとうございます。

ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくご使用ください。また、保証書と一緒にいつでもすぐ読める場所に保管しておいてください。

内容物を確認する

本製品をご使用になる前に、下記内容物がすべてそろっていることを確認してください。万一、内容物に不足や損傷がある場合は、お買い上げの販売店または当社お客様相談窓口までご連絡ください。

ATW-1701	ATW-1702
   ●レシーバー (ATW-R1700) × 1 ●アンテナ × 2 ●レシーバーホルダー × 1	   ●レシーバー (ATW-R1700) × 1 ●アンテナ × 2 ●レシーバーホルダー × 1
  ●2ピンスタブトランスミッター (ATW-T1001J) × 1 ●ACアダプター (USBタイプ) × 1	  ●マイクロホンスタブトランスミッター (ATW-T1002J) × 1 ●ACアダプター (USBタイプ) × 1
  ●φ3.5mmステレオケーブル (AT8349: 50cm) × 1 ●充電用USBケーブル (150cm) × 1	   ●φ3.5mmステレオケーブル (AT8349: 50cm) × 1 ●変換ネジ (3/8-5/8) × 1 ●マイクホルダー (AT8456a) × 1
 ●φ3.5mm-XLRピンオス (AT8350: 50cm) × 1 ●保証書 ●取扱説明書 (本書)	  ●φ3.5mm-XLRピンオス (AT8350: 50cm) × 1 ●充電用USBケーブル (150cm) × 1 ●保証書 ●取扱説明書 (本書)

特長

- 安定した運用を可能にする3つのダイバーシティを搭載
- リアルタイム双方向通信で干渉周波数を自動回避
- 最大8セットの同時使用が可能
 - *レシーバー1台につき、1台のトランスミッターが使用可能です。
- レシーバーは専用リチウム電池により12時間連続使用可能
- 撮影中のモニタリングに最適な液晶ディスプレイ
- 受信レベルを5ステップ表示
- トランスミッターとレシーバーの電池残量を4ステップ表示
- マルチペアリング機能で送信機のスムーズな切り替えが可能

目次

安全上の注意	2～3 ページ
使用上の注意	4 ページ
各部の名称と機能	4～6 ページ
電池の入れかた	7 ページ
充電のしかた	8 ページ
接続のしかた	9 ページ
使いかた	10～12 ページ
マルチペアリング機能	13 ページ
本システムを上手に運用するための 10 ポイント	14 ページ
外形寸法図	14 ページ
故障かな?と思ったら	15 ページ
テクニカルデータ	裏表紙

安全上の注意

本製品は安全性に充分な配慮をして設計していますが、使いかたを誤ると事故が起こることがあります。事故を未然に防ぐために下記の内容を必ずお守りください。

 危険	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が切迫しています」を意味しています。
 警告	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性があります」を意味しています。
 注意	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う、または物的損害が発生する可能性があります」を意味しています。

本体について

警告

- 心臓ペースメーカーの装着部位から 22cm 以内の場所では使用しない
ペースメーカーが、本製品の電波の影響を受ける恐れがあります。
- 本製品を医療機器の近くで使用しない
電波が心臓ペースメーカーや医療用電気機器に影響を与える恐れがあります。
医療機関の屋内では使用しないでください。
- 指定の AC アダプター以外は使用しない
事故や火災の原因になります。
- 異常に気付いたら使用しない
異常な音、煙、臭いや発熱、損傷などがあつたら、すぐに使用を中止して、
お買い上げの販売店か当社のサービスセンターに連絡してください。
そのまま使用すると、火災など事故の原因になります。
- 分解や改造はしない
感電、故障や火災の原因になります。
- 強い衝撃を与えない
感電、故障や火災の原因になります。
- 濡れた手で触れない
感電やけがの原因になります。
- 水をかけない
感電、故障や火災の原因になります。
- 本製品に異物（燃えやすい物、金属、液体など）を入れない
感電、故障や火災の原因になります。
- 布で覆わない
過熱による火災やけがの原因になります。
- 同梱のポリ袋は幼児の手の届く所や火のそばに置かない
事故や火災の原因になります。

注意

- 不安定な場所に設置しない
転倒などによりけがや故障の原因になります。
- 直射日光の当たる場所、暖房器具の近く、高温多湿やほこりの多い場所に置かない
故障、不具合の原因になります。
- 火気に近づけない
変形、故障の原因になります。
- ベンジン、シンナー、接点復活剤などは使用しない
変形、故障の原因になります。

AC アダプターについて

警告

- AC100V以外の電源には使用しない(日本国内専用)
過熱による火災など事故の原因になります。
- 本製品以外には使用しない
過熱による火災など事故の原因になります。
- 異常(音、煙、臭いや発熱、損傷など)に気付いたら使用しない
異常に気付いたらすぐに使用を中止して、コンセントから抜き
お買い上げの販売店か当社のサービスセンターに連絡してください。
そのまま使用すると、火災など事故の原因になります。
- コードは伸ばして使用する。釘などでの固定や、束ねたままでの使用はしない
過熱による火災など事故の原因になります。
- コンセントや本体にプラグを差し込むときは根元まで確実に差し込む
過熱による火災など事故の原因になります。
- コードを引っ張らず、プラグを持ってまっすぐ抜き差しする
断線、故障の原因になります。
- コードの上に物を置いたり、敷物や家具などの下に入れたりしない
断線、故障の原因になります。
- 分解や改造はしない
感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
- 強い衝撃を与えない
感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
- 濡れた手で触れない
感電によるけがの恐れがあります。
- 布などで覆わない
過熱による火災など事故の原因になります。
- プラグにたまったほこりなどは乾いた布で定期的に拭き取る
過熱による火災など事故の原因になります。
- ベンジン、シンナー、接点復活剤など薬品は使用しない
変形、故障の原因になります。

注意

- 長時間使用しないときは、コンセントから抜き
省エネルギーにご配慮ください。
- 足に引っかかりやすい場所にコードを引き回さない
故障や事故の原因になります。
- 通電中のACアダプターに長時間触れない
低温やけどの原因になることがあります。

内蔵充電式電池(レシーバー)/電池(トランスミッター)について

指定電池(トランスミッター) 単 3 形アルカリ乾電池または単 3 形ニッケル水素電池 (1900mAh 以上) ×2 (別売)

⚠ 危険

*1 は内蔵充電式電池についてのみの内容になります。

- 電池の液が目に入ったときは目をこすらない
すぐに水道水などのきれいな水で十分に洗い、医師の診察を受けてください。
- 電池の液が漏れたときは素手で液を触らない
 - 液が本製品の内部に残ると故障の原因になります。電池が液漏れを起こした場合は、当社サービスセンターまでご相談ください。
 - 万一、なめた場合はすぐに水道水などのきれいな水で十分にうがいをし、医師の診察を受けてください。
 - 皮膚や衣服に付いた場合は、すぐに水で洗い流してください。皮膚に違和感がある場合は医師の診察を受けてください。
- 火の中に入れない、加熱、分解、改造しない
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- 釘を刺したりハンマーで叩いたり踏み付けたりしない
発熱、破損、発火の原因になります。
- 落下させたり強い衝撃を与えない
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- 以下の場所で使用、放置、保管しない
 - 直射日光の当たる場所、高温多湿の場所
 - 炎天下の車内 ■ストーブなどの熱源の近く液漏れ、発熱、破裂、性能低下の原因になります。
- 水に濡らさない
発熱、破裂、発火の原因になります。
- 付属の AC アダプター以外で充電しない*1
故障や火災の原因になります。

⚠ 警告

*本項目は単 3 形電池についての内容になります。

- 幼児の手の届く所に置かない
電池を飲み込んだ場合は、すぐに医師の診察を受けてください。窒息や内臓への障害の恐れがあります。
- 電池は (+)(-) を逆に入れない
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- 硬貨やカギなど金属製のものと一緒の場所に置いたり、電池の (+)(-) を接続しない
ショート状態になり液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- 新しい電池と一度使用した電池、銘柄や種類の違う電池を混ぜて使用しない
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- 乾電池は充電しない
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- 使い切った電池はすぐに取り出す
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- 長期間使用しない場合は電池を取り出す
液漏れによる故障の原因になります。

⚠ 注意

*2 は単 3 形ニッケル水素電池、
*3 は単 3 形アルカリ乾電池についての内容になります。

- 指定の充電器以外で充電しない*2
故障や火災の原因になります。
- 外装ラベルがはがれた電池は使用しない、ラベルをはがさない*2、*3
ショート状態になりやすく、液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- 変形させたりハンダ付けしない*2、*3
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- 保管、廃棄の場合は端子(金属部分)をテープなどで絶縁する*2、*3
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- 機器を使用したあとは必ずスイッチを切る
液漏れの多くは、スイッチの切り忘れによる電池の消耗が原因です。
- 指定の電池以外使用しない*2、*3
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- 使用済みの電池は自治体の所定の方法で処分する*3
環境保全に配慮してください。

■単3形ニッケル水素電池を廃棄する場合 リサイクルのお願い



Ni-MH

■充電式電池のリサイクルについて

充電式電池はリサイクルできます。不要になった電池は、端子(金属部分)にテープなどを貼り付けて絶縁してから充電式電池リサイクル協力店にお持ちください。充電式電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店については、社団法人電池工業会ホームページ<http://www.baj.or.jp>をご覧ください。

■本製品(レシーバー)を廃棄する場合 リサイクルのお願い



Li-ion

内蔵充電式電池はリサイクルできます。

本製品を廃棄するにあたり、リサイクルにご協力いただける場合は本製品を下記宛先まで着払いにてお送りください。なお、電池を取り出したあとの本製品は返却いたしかねますので予めご了承ください。

○送り先

〒915-0003 福井県越前市戸谷町 87-1

株式会社オーディオテクニカフクイ 二次電池回収担当 宛

TEL : 0778-25-6736 (電池回収専用)

■内蔵充電式電池の交換のしかた

本製品を十分に充電しても使用時間が短くなった場合は、内蔵充電式電池の寿命が考えられます。

内蔵充電式電池の交換は、お客様ご自身で行わず、当社サービスセンターへご相談ください。

○サービスセンター ☎ 0120-887-416

(携帯電話・PHSなどのご利用は 03-6746-0212)

使用上の注意

本体について

- ご使用の際は、接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 本製品の近くに発信機（携帯電話など）があるとノイズが入る場合がありますので離してご使用ください。
- 汚れたときは電源プラグを抜いてから、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。

ワイヤレス機器について

本製品は 2.4GHz の周波数帯域を使用します。この周波数帯域を使用するほかの機器との電波干渉を避けるために、下記事項をお読みのうえ、ご使用ください。

本製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの家庭用電気機器・IT・産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許が必要）、特定小電力無線局（免許が不要）、およびアマチュア無線局（免許が必要）が運用されています。

1. ご使用の前に、近くで移動体識別用の構内無線局、特定小電力無線局、およびアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 本製品の使用により、万一、移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉が発生した場合には、速やかにレシーバー、およびトランスミッターの電源を切ってください。
そのうえでお客様相談窓口（→裏表紙）にご連絡いただき、混信回避のための処置（例えばパーティションの設置など）についてご相談ください。
3. そのほか、移動体識別用の特定小電力無線局またはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉が発生した場合や、ご不明な点がございましたら、当社お客様相談窓口（→裏表紙）までお問い合わせください。

- 本製品は日本国内でのみご使用いただけます。
- 本製品は、電波法に基づく小電力データ通信システム無線局設備として工事設計認証を受けております。
無線局の免許は必要ありません。
- 以下の行為は、法律で禁じられています。

- － 分解や改造を行う
- － 本体に貼付の工事設計認証ラベル（マークを含むラベル）をはがす

- 本体の表示について

 この無線機が 2.4GHz 帯を使用し、変調方式はその他の方式、与干渉距離が 80m 以内、全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能を表わします。

- 使用可能範囲

トランスミッターから約 30m の範囲でご使用いただけますが、トランスミッターとレシーバーの間に障害物がある場合や建物の構造などによっては使用可能な距離が短くなる場合があります。

- ほかの機器との影響①

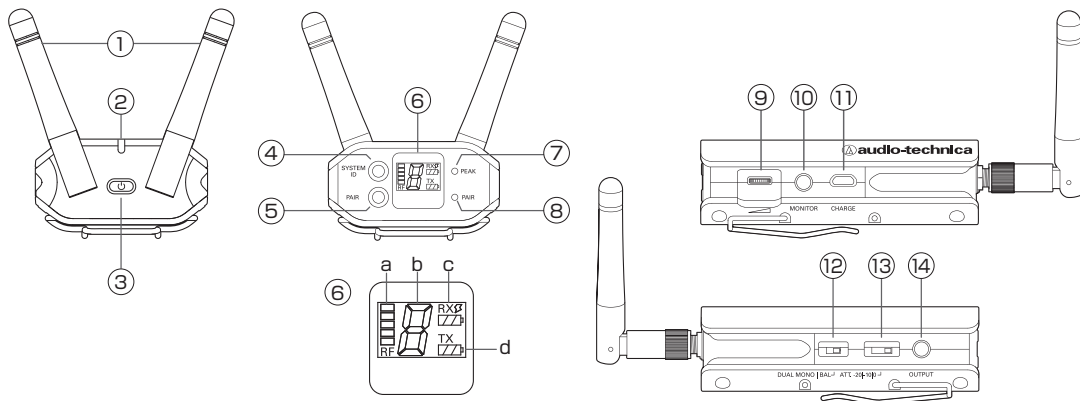
Bluetooth 搭載機器、無線 LAN・Wi-Fi を使用する機器、デジタルコードレス電話、電子レンジなど、本製品と同じ 2.4GHz 帯の電波を使用する機器の影響によって音声が途切れることがあります。同様に、本製品の電波がこれらの機器に影響を与える可能性があるため、干渉し合う機器同士は離して設置してください。

- ほかの機器との影響②

お使いになる環境の電波使用状況によって、同時使用の最大本数や起動時に受信インジケーターが点灯するまでの時間が長くなる場合があります。

各部の名称と機能

レシーバー ATW-R1700



① アンテナ（脱着可能）

② 電源インジケーター

電源 ON 時は緑色に点灯し、充電時は赤色に点灯します。

③ 電源ボタン

長押しで電源の ON / OFF をします。

各部の名称と機能

レシーバー ATW-R1700

④ システム ID 切換ボタン

システム ID を切り換えます。ボタンを押すと 1 ～ 8 まで順方向にシステム ID が切り換わります。
※出荷時の設定は 1 です。

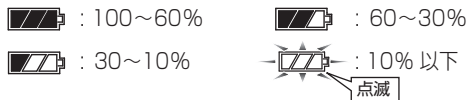
⑤ ペアリングボタン

ペアリングを行うときに使用します。

⑥ LCD 表示部

- a : RF シグナルレベルインジケーター
送信機からの RF 信号の強さを表示します。
- b : システム ID 表示部
現在設定されているシステム ID を表示します。
- c : レシーバーバッテリーインジケーター
レシーバーのバッテリー残量を表示します。
- | | |
|---|--|
|  : 100～60% |  : 60～30% |
|  : 30～10% |  : 10% 以下 |
- 点滅
- d : トランスミッターバッテリーインジケーター
トランスミッターのバッテリー残量を表示します。

単 3 形アルカリ乾電池使用時



単 3 形ニッケル水素電池 (1900mAh 以上) 使用時



※電池の特性が異なるため、ニッケル水素電池使用時は、トランスミッターバッテリーインジケーターが点滅を開始してから、約 5 分で電源が OFF になります。

※長時間連続運用する場合には、トランスミッターの電源投入後、しばらく (約 20 分) たってから、再度電池の残量を確認してください。
使用済み、あるいは使用中の電池でも、しばらく使用せずに放置すると、電池の電圧が回復するため、トランスミッターの電源を入れた直後は、正しい残量を表示できない場合があります。

※電池残量の表示と使用可能時間はご使用になる電池の種類により異なります。

※トランスミッターと通信中に点灯します。

※バックライトは約 30 秒で消灯します。

③、④、⑤のいずれかのボタンを押すと再度点灯します。

⑦ ピークインジケーター

過大な入力信号を受信したときに、赤色に点灯します。

⑧ 受信インジケーター

トランスミッターと通信中に緑色に点灯します。
また、ペアリング中は緑色に点滅します。

⑨ モニター出力 レベルボリュームノブ

モニター出力レベルを調整します。
※出荷時の設定は最小です。

⑩ モニター出力端子 (φ3.5mm TRS ジャック)

ステレオミニプラグまたはモノラルミニプラグのイヤホンおよびヘッドホンを接続します。
※どちらもモノラル出力となります。
※イヤホン、ヘッドホン専用端子のため、ファントム電源やプラグインパワー方式対応の機器には接続しないでください。

⑪ 充電端子 (マイクロ USB タイプ)

付属の充電用 USB ケーブルに AC アダプターを接続し、AC100V 50 / 60Hz の電源に接続してください。

⑫ 音声出力切換スイッチ

⑭ 音声出力端子の出力モードを切り換えます。
デュアルモノモードまたはバランスモードを選択します。
※出荷時の設定はデュアルモノモードです。

⑬ 音声出力レベル切換スイッチ

音声の出力レベルを切り換えます。0 dB、-10 dB または -20 dB を選択します。
※出荷時の設定は 0 dB です。

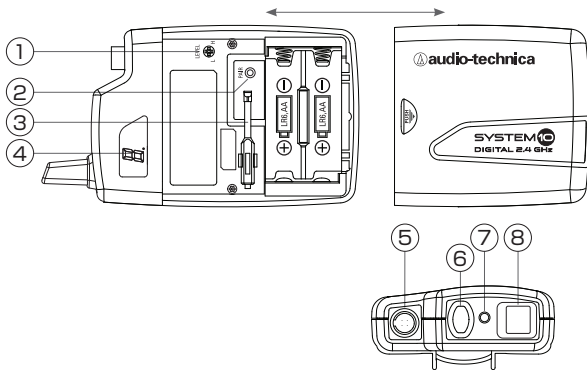
⑭ 音声出力端子 (φ3.5mm TRS ジャック)

カメラまたはミキサーに接続する音声出力端子です。

*各部の機能に関して、詳細は 10、11、12 ページ「使いかた」をご覧ください。

各部の名称と機能

2ピースタイプトランスミッター ATW-T1001J



① AF レベルボリュームノブ

音声の入力レベルを調整します。
※出荷時の設定は最大です。

② ペアリングボタン

ペアリングを行うときに使用します。

③ ミニドライバー

AF レベルボリュームノブを調整するときに使用します。
※紛失しないようご注意ください。

④ システム ID 表示部

現在設定されているシステム ID を表示します。
※出荷時の設定は 1 です。

⑤ 入力コネクター

当社のギターケーブルやヘッドウォーンマイク、またはラベリアマイクなどを接続します。

⑥ 電源／ミュートボタン

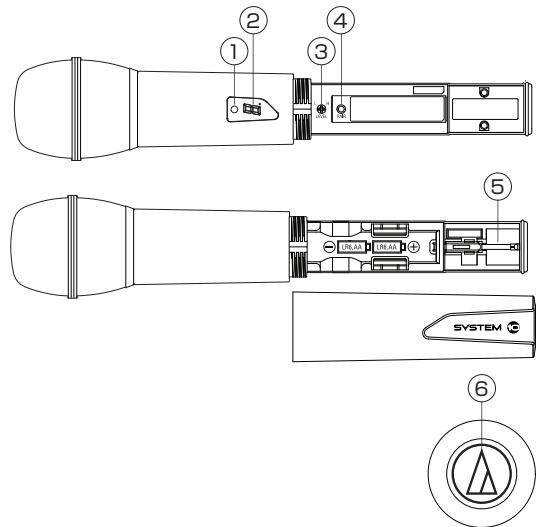
長押しで電源の ON / OFF、
短押しでミュートの ON / OFF します。

⑦ 電源／ミュートインジケーター

電源 ON 時に緑色に点灯、
ミュート ON 時に赤色に点灯します。

⑧ アンテナ

マイクロホンタイプトランスミッター ATW-T1002J



① 電源／ミュートインジケーター

電源 ON 時に緑色に点灯、
ミュート ON 時に赤色に点灯します。

② システム ID 表示部

設定されているシステム ID を表示します。
※出荷時の設定は 1 です。

③ AF レベルボリュームノブ

音声の入力レベルを調整します。
※出荷時の設定は最大です。

④ ペアリングボタン

ペアリングを行うときに使用します。

⑤ ミニドライバー

AF レベルボリュームノブを調整するときに使用します。
※紛失しないようご注意ください。

⑥ 電源／ミュートボタン

長押しで電源の ON / OFF、
短押しでミュートの ON / OFF します。

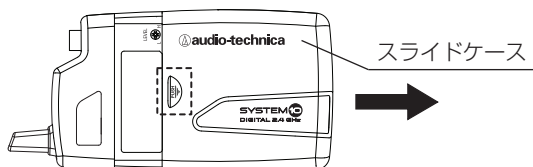
*各部の機能に関して、詳細は 10、11、12 ページ「使いかた」をご覧ください。

電池の入れかた

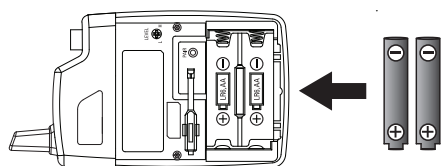
2ピースタイプトランスミッター ATW-T1001J

①電源が OFF になっていることを確認します。

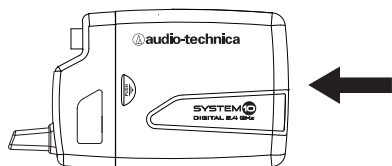
②スライドケースの「PUSH」表示部を押しながら
図の矢印方向にスライドさせ外します。



③別売の単 3 形電池×2 本を表示の向きに合わせて
入れます。



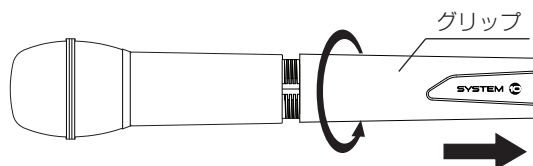
④スライドケースを本体に合わせ、図の矢印方向に
「カチッ」と音がするまでスライドさせて取り付けます。



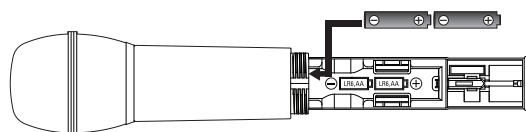
マイクロホンタイプトランスミッター ATW-T1002J

①電源が OFF になっていることを確認します。

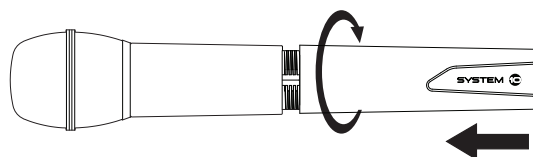
②グリップを反時計方向に回し外します。



③別売の単 3 形電池×2 本を表示の向きに合わせて
⊖側から入れます。



④グリップを本体にはめ込み、時計方向に回します。

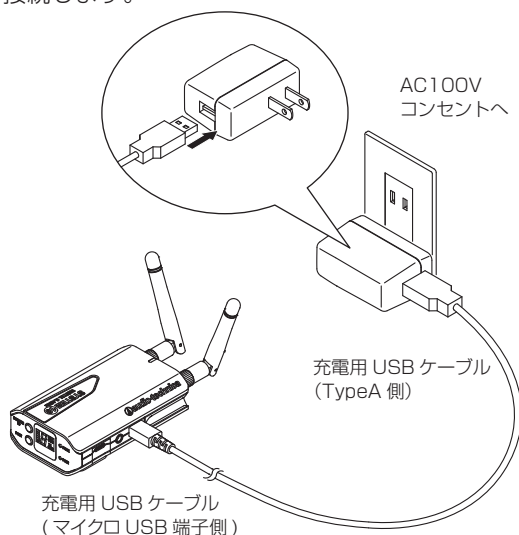


充電のしかた

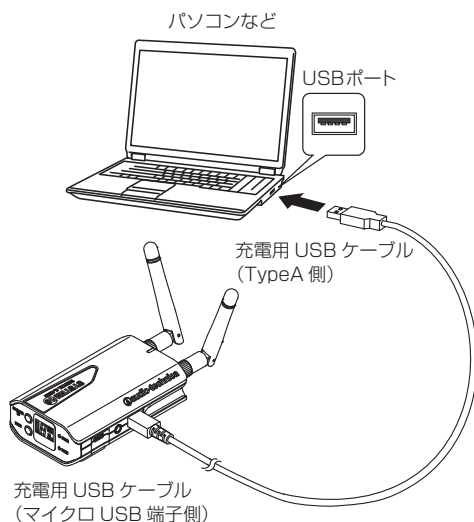
①付属の充電用 USBケーブルを接続します。

【ACアダプターを使用する場合】

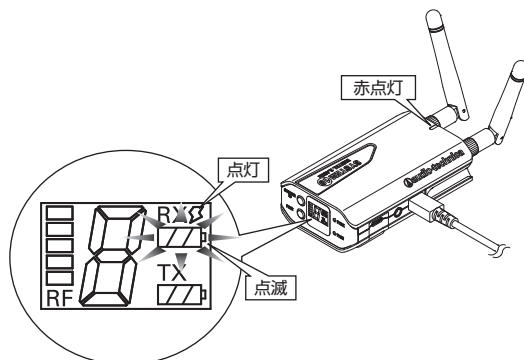
付属の ACアダプターと充電用 USBケーブルを接続します。



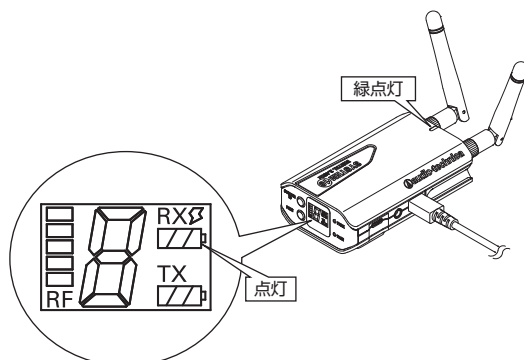
【パソコンなどの USB ポートを使用する場合】



②充電中は電源インジケーターが赤色に点灯します。
また、LCD 表示部のレシーバーバッテリーインジケーターが点滅し、充電マーク (⌘) が点灯します。



③充電が完了すると電源インジケーターが赤色から
緑色点灯に変わります。(約 4.5 時間)
また、LCD 表示部のレシーバーバッテリーインジ
ケーターが点滅から点灯に変わります。



- 長期間使用しないときでも、内蔵充電式電池を保護するため、半年に1度は充電を行うようにしてください。放置しすぎると充電式電池の持続時間が短くなったり、充電しなくなる恐れがあります。
- 電池の消耗が早い場合は、充電式電池の寿命が考えられます。専用充電式電池の交換については、販売店または当社サービスセンター(裏表紙)へお問い合わせください。
- 本製品を充電する際は、直射日光を避け、風通しの良い場所(5～35℃)で充電してください。電池の劣化を招き、連続使用時間が短くなる、または充電ができなくなります。

接続のしかた

※接続する機器の取扱説明書を併せてお読みください。

接続の前に接続機器の音量ボリュームを最小にし、電源は「切」状態にしてから接続してください。

※イヤホン、ヘッドホン専用端子のため、
ファントム電源やプラグインパワー方式
対応の機器には接続しないでください。

モニター出力端子

音声出力端子

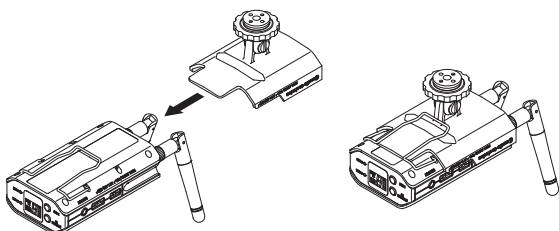
イヤホン、
ヘッドホンなど

カメラ、ミキサー、
アンプなど

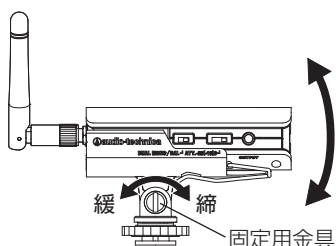
※マイクレベル対応の機器に
接続してください。

レシーバーをレシーバーホルダーに取り付ける

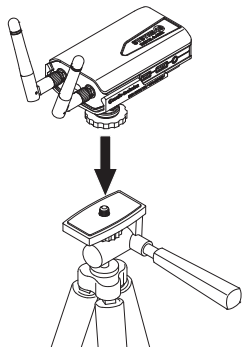
- ①レシーバーホルダーを矢印方向にスライドさせます。(ベルトクリップが図の位置)



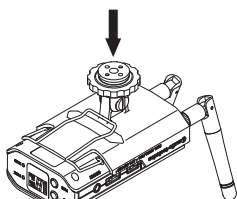
- ②固定用金具を反時計方向に回し緩めます。
レシーバーホルダー上部を任意の傾きに合わせ
固定用金具を時計方向に回し固定します。



カメラねじ (1/4 インチねじ) への取り付けかた

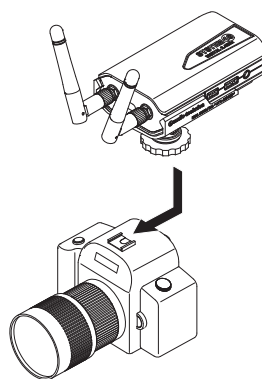


カメラねじは図の矢印の
位置に取り付けます。

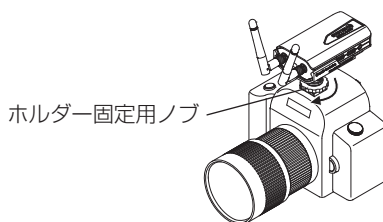


カメラへの取り付けかた

- ①カメラシューにレシーバーホルダーをセットします。

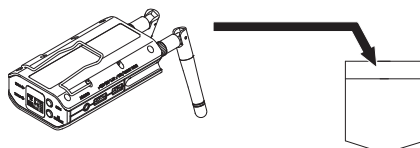


- ②ホルダー固定用ノブを時計方向に回し固定します。



レシーバーホルダーを使用しない

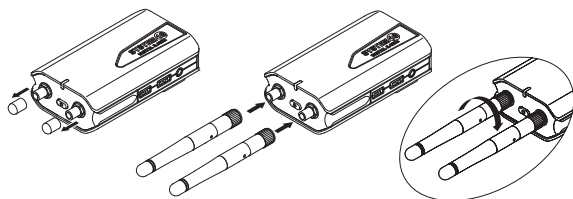
ベルトクリップを使用し、ポケットなどに装着してください。



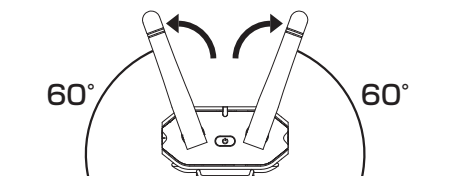
使いかた

レシーバーを準備する

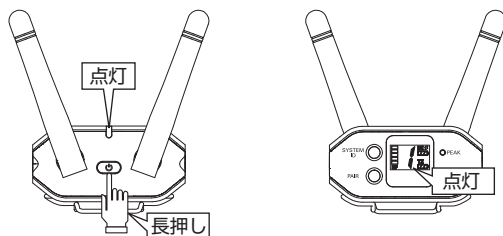
- ①保護キャップを取り外します。
アンテナをセットし時計方向に回し、取り付けます。



- ②レシーバーのアンテナを立てます。
安定した運用のため、V 字型（図のように約60度）にしてください。



- ③レシーバーの電源ボタンを長押しします。



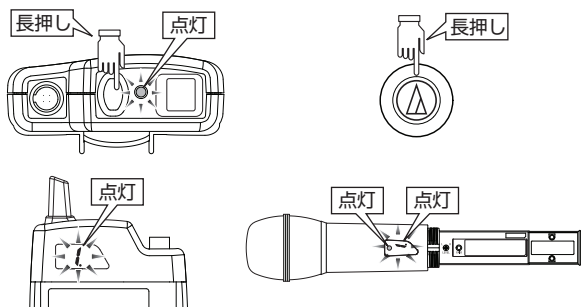
電源インジケータが緑色に点灯します。
LCD 表示部が点灯します。

トランスミッターを準備する

- ①トランスミッターの電源/ミュートボタンを
長押しします。

【ATW-T1001Jの場合】

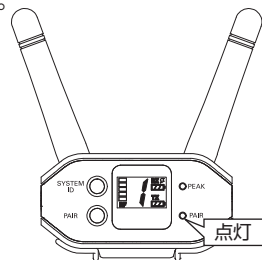
【ATW-T1002Jの場合】



電源/ミュートインジケータが緑色に点灯します。
システム ID 表示部に ID が青色に点灯します。

トランスミッターを準備する（つづき）

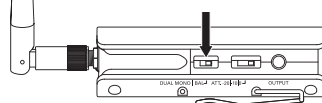
- ②レシーバーの受信インジケータが緑色に
点灯します。



音声の入出力レベルを調整する

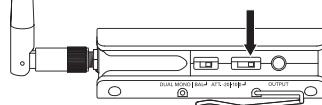
- ①レシーバーの音声出力切換スイッチで、
デュアルモノモード・バランスモードを選択します。

デュアルモノモード：接続機器がモノラル入力の場合
バランスモード：接続機器がバランス入力の場合

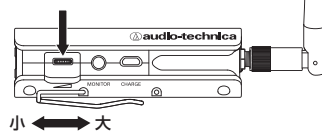


- ②レシーバーの音声出力レベル切換スイッチで
音声の出力レベルを調整します。

接続する外部機器と合わせて最適な出力
レベルに設定してください。



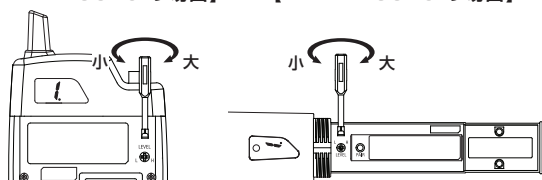
- ③モニター出力レベルボリュームノブで、
モニター出力レベルを調整します。



- ④必要に応じて、トランスミッターの AF レベル
ボリュームノブで音声の入力レベルを調整します。

【ATW-T1001Jの場合】

【ATW-T1002Jの場合】

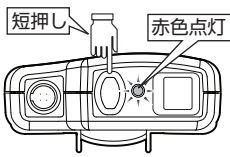


* 操作の際は必ずトランスミッターに付属している
ミニドライバーを使用してください。

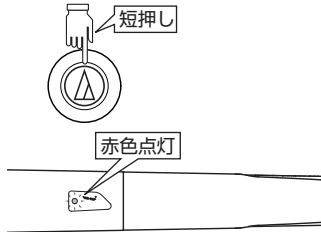
使いかた

ミュート（消音）のしかた

【ATW-T1001J の場合】



【ATW-T1002J の場合】

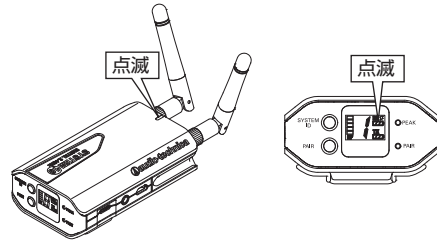


①電源／ミュートボタンを短押しするとミュート状態になります。
電源／ミュートインジケーターが赤色点灯に変わります。

②再度、電源／ミュートボタンを短押しするとミュートが解除されます。
電源／ミュートインジケーターが緑色点灯に変わります。

レシーバーの電池充電について

レシーバーの電池残量が少なくなると、レシーバーの電源インジケーターが緑点灯から緑点滅に変わり、レシーバーバッテリーインジケーターが点滅します。その際は充電してください。



* バッテリー残量に関して、詳細は 4、5 ページ「各部の名称と機能」をご覧ください。
* 充電方法に関して、詳細は 8 ページ「充電のしかた」をご覧ください。

ミュートロックモード

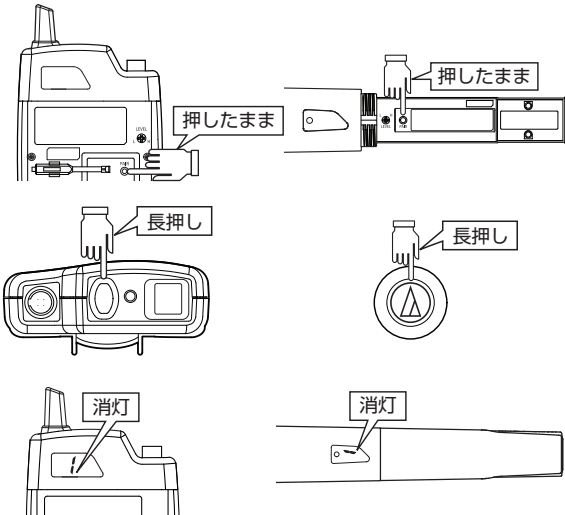
ミュート操作を無効にすることができます。

設定のしかた

トランスミッターのペアリングボタンを押したまま、電源／ミュートボタンを長押しし電源を ON します。

【ATW-T1001J の場合】

【ATW-T1002J の場合】



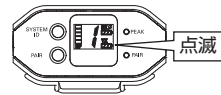
ミュートロックモード時はシステム ID 表示部 ID 横の「.」（ドット）が消灯します。

解除のしかた

再度、トランスミッターのペアリングボタンを押したまま電源を ON します。
システム ID 表示部 ID 横に「.」（ドット）が点灯します。

トランスミッターの電池交換時期について

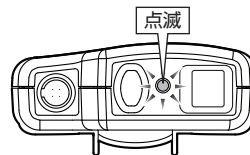
トランスミッターの電池残量が少なくなると、レシーバーのトランスミッターバッテリーインジケーターが点滅します。



* バッテリー残量に関して、詳細は 4、5 ページ「各部の名称と機能」をご覧ください。

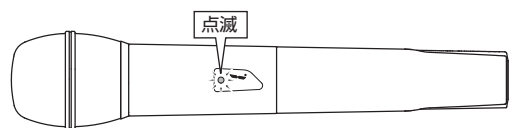
トランスミッターの電源／ミュートインジケーターが点灯から点滅に変わります。

【ATW-T1001J の場合】



* 通常使用時は緑色に点滅、ミュート時は赤色に点滅します。

【ATW-T1002J の場合】



電池残量が少なくなった場合は、新しい電池に交換してください。
充電式電池を使用している場合は充電してください。

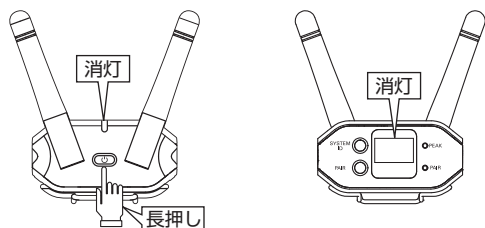
* 電池特性の違いのため、ニッケル水素電池使用時は、レシーバーのトランスミッターバッテリーインジケーターが点滅後、またトランスミッターの電源／ミュートインジケーターが点滅後、約 5 分で電源が OFF になります。

使いかた

電源の切りかた

電源ボタンを長押しします。

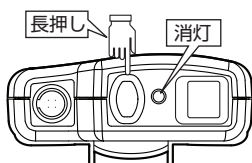
【ATW-R1700 の場合】



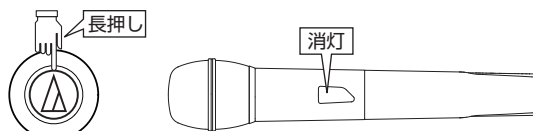
電源インジケータと LCD 表示部が消灯します。

電源／ミュートボタンを長押しします。

【ATW-T1001J の場合】



【ATW-T1002J の場合】



電源／ミュートインジケータが消灯します。

複数のシステムで使用するには

複数のシステムを同時にご使用の際は、各々異なったシステム ID に設定してください。

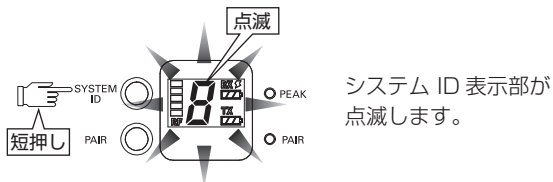
(同じ ID のシステムが運用範囲内に複数存在しても、混信することはありません。どのレシーバーとどのトランスミッターが通信しているか識別するために異なる ID に設定して使用することをおすすめします。)

* レシーバー 1 台につき、1 台のトランスミッターが使用可能です。

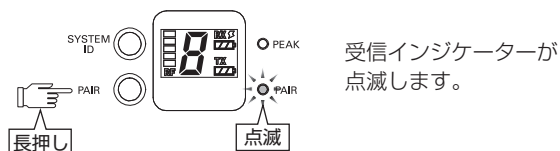
* 本システムは上記組み合わせで最大 8 セットの同時使用が可能です。

ペアリングを行う

①レシーバーのシステム ID 切換ボタンを押し、任意の ID 番号を表示します。



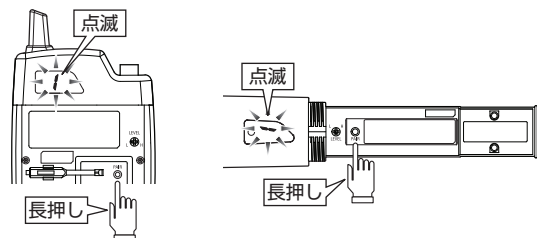
②レシーバーのペアリングボタンを長押しします。



③レシーバーの受信インジケータが点滅している間に、トランスミッターのペアリングボタンを長押しします。

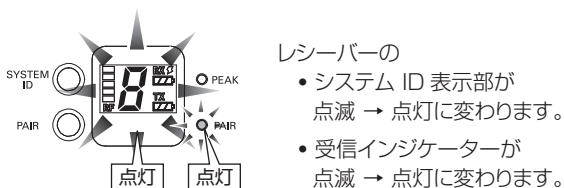
【ATW-T1001J の場合】

【ATW-T1002J の場合】



システム ID 表示部が点滅します。

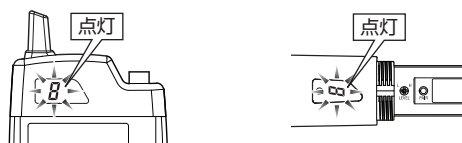
④ペアリング正常終了の場合



- システム ID 表示部が点滅 → 点灯に変わります。
- 受信インジケータが点滅 → 点灯に変わります。

【ATW-T1001J の場合】

【ATW-T1002J の場合】



システム ID 表示部の ID がレシーバーと一致し、点滅 → 点灯に変わります。

⑤「④」の状態にならなかった場合は、もう一度①の動作からやり直してください。

マルチペアリング機能

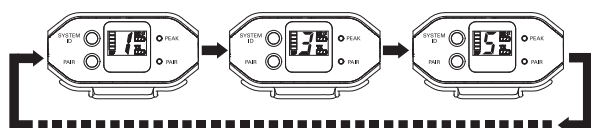
本システムは、1 台のレシーバーに最大 8 台のトランスミッターを登録することが可能です。
都度ペアリングを行う必要がなく、トランスミッターを切り換えるときに大変便利です。

ID を登録する場合

- ①ペアリングを行います。
11 ページ「ペアリングを行う①～④」を参照ください。異なる ID 番号に登録してください。

- ②トランスミッターと通信していないとき、レシーバーのシステム ID 表示部には、登録されている ID のみ順次表示されます。

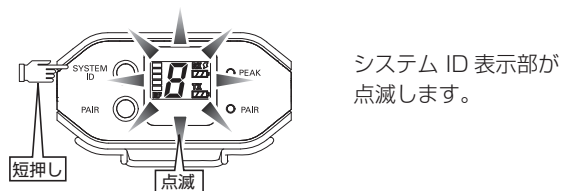
例】ID 1. 3. 5 を登録した場合



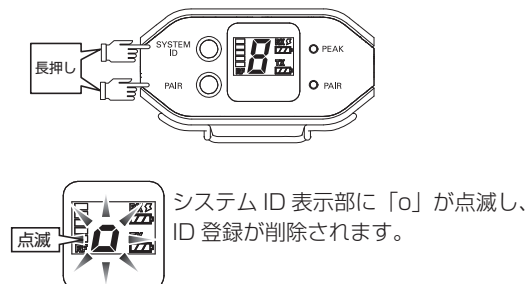
- * ID を登録するときは、登録するトランスミッター以外の電源を OFF にしてください。
- * 1 つのトランスミッターを複数の ID に登録することはできません。

ID 登録を 1 つ削除する場合

- ①レシーバーのシステム ID 切換ボタンを押し、登録を削除したい ID 番号を表示します。

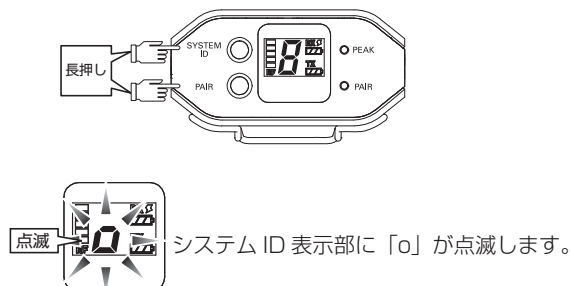


- ②レシーバーのシステム ID 切換ボタンとペアリングボタンを同時に長押しします。

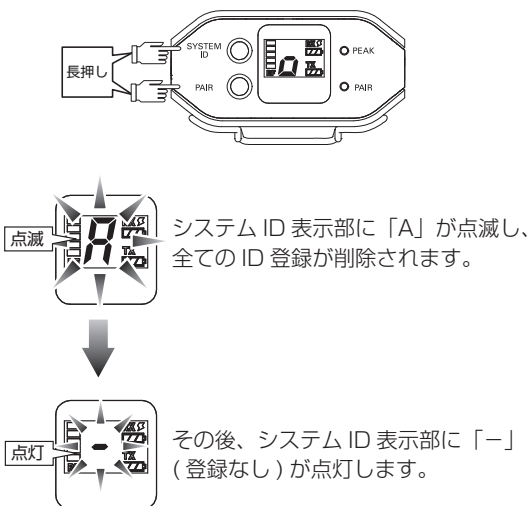


ID 登録を全て削除する場合

- ①レシーバーのシステム ID 切換ボタンとペアリングボタンを同時に長押しします。



- ②システム ID 表示部に「0」が点滅している間に、再度レシーバーのシステム ID 切換ボタンとペアリングボタンを同時に長押しします。



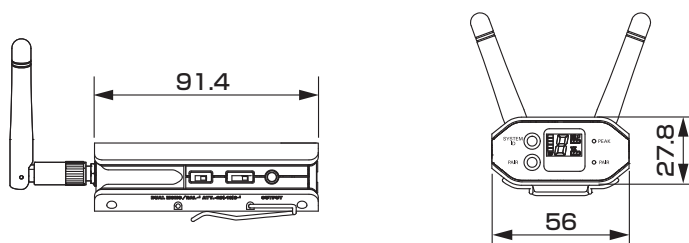
- * 使用していないトランスミッターの電源は OFF にしてください。
- * トランスミッターを切り換えるときは、必ずトランスミッターの電源を OFF にしてください。
電源が ON のまま電池を外したときや、通信範囲外で電源を OFF にしたときは、その他のトランスミッターに切り換わりません。一度レシーバーの電源を OFF にしてください。

本システムを上手に運用するための10ポイント

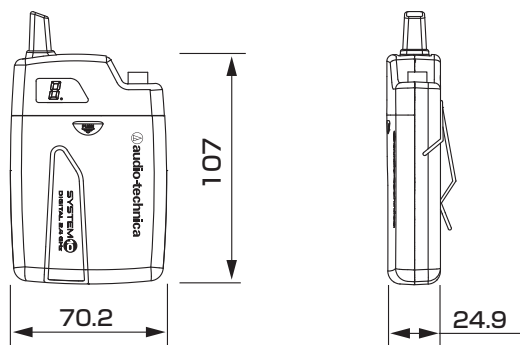
1. トランスミッターを長時間連続でご使用になる場合は、運用する前に新品の電池または充電済みの単3形ニッケル水素電池(1900mAh以上)を準備してください。
2. レシーバーを長時間連続でご使用になる場合は、運用する前に満充電にしてください。
3. レシーバーとトランスミッターの間にはできるだけ障害物がないように設置してください。
4. レシーバーとトランスミッターの距離は近くなるように設置してください。
* レシーバーとトランスミッターの距離が2m未満では使用しないでください。
5. ほかのデジタル機器からできるだけ離してください。特にWi-Fiルーターなどの2.4GHz帯無線機器はレシーバーとトランスミッターから10m以上離して設置してください。
6. レシーバーのアンテナは、できるだけ金属物から離して設置してください。
7. トランスミッターのAFレベルボリュームノブを調整し、レシーバーのピークインジケーターが点灯しないよう設定してください。
* レシーバーに対して入力が大きすぎると音割れや歪みが発生します。
逆に入力小さすぎるとS/Nが悪くなり、ノイズが発生しやすくなります。
8. レシーバーの音声出力レベル切換スイッチを調整し、接続機器のピークインジケーターが点灯しないよう設定してください。
* 接続する外部機器に対して入力が大きすぎると、音割れや歪みが発生します。
逆に入力小さすぎるとS/Nが悪くなり、ノイズが発生しやすくなります。
9. トランスミッターをご使用にならない場合は電源を切ってください。また、長時間ご使用にならない場合は乾電池を外してください。
10. レシーバーをご使用にならない場合は、電源を切ってください。

外形寸法図 (単位: mm)

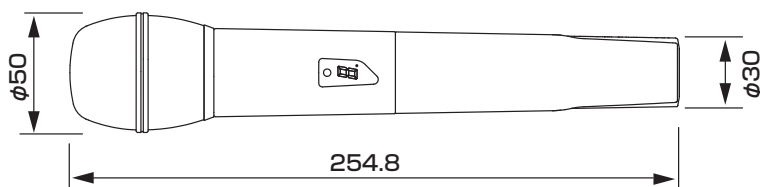
ATW-R1700



ATW-T1001J



ATW-T1002J



故障かな?と思ったら

レシーバーの電源が入らない

- ・電池が消耗していませんか?
→ 電池を充電してください。

8ページの「充電のしかた」を参照ください。

トランスミッターの電源が入らない

- ・電池が入っていますか?
→ 電池を入れてください。
- ・電池が消耗していませんか?
→ 新しい電池に交換してください。
充電式電池を使用している場合は充電してください。
- ・電池が正しい向きに入っていますか?
→ 電池を正しい向きに入れ直してください。

7ページの「電池の入れかた」を参照ください。

トランスミッターの電源がすぐ切れてしまう

- ・電源 LED が点滅していませんか?
→ 電池が消耗している可能性があります。
新しい電池に交換してください。
充電式電池を使用している場合は充電してください。

7ページの「電池の入れかた」を参照ください。

11ページの「電池交換時期について」を参照ください。

音が割れる

- ・音声が大きすぎませんか?
→ レシーバーの音声出力切換スイッチを調整し、出力レベルを切り換えてください。
- トランスミッターの AF レベルボリュームノブを調整し、入力レベルを小さくしてください。

レシーバーとトランスミッターが通信しない

- ・レシーバーとトランスミッターの ID 番号は一致していますか?
→ 一致する組み合わせで使用してください。
→ ペアリングをやり直してください。

12ページの「ペアリングを行う」を参照ください。

- ・ほかのトランスミッターと通信していませんか?
→ 使用していないトランスミッターの電源は OFF にしてください。
- ・トランスミッターを切り換えるとき、正しく電源を OFF にしていますか?
→ AC アダプターを抜いてレシーバーの電源を一度 OFF にしてください。

13ページの「マルチペアリング機能」を参照ください。

レシーバーが充電できない

- ・AC アダプターがコンセントから外れていませんか?
- ・USB ケーブルが本体から外れていませんか?
- ・USB ケーブルがパソコンから外れていませんか?
- ・周囲温度は 5 ~ 35℃ですか?
→ 保護が働くため上記温度範囲で充電してください。
(低温保護: 電源/バッテリーインジケーター赤色点滅)

8ページの「充電のしかた」を参照ください。

ノイズが出る

- ・レシーバーへのコード、または機器へのコードが確実に接続されていますか?
9ページの「接続のしかた」を参照ください。
- ・レシーバーの近くに蛍光灯や電気機器などのノイズ発生源はありませんか?
→ レシーバーをノイズ発生源から離してください。

音が出ない、または音声が小さい

- ・レシーバーとトランスミッターの ID 番号は一致していますか?
→ 一致する組み合わせで使用してください。
→ ペアリングをやり直してください。

12ページの「ペアリングを行う」を参照ください。

ATW-T1001J、ATW-T1002J の確認

- ・電源が OFF になっていませんか?
→ 電源を ON にしてください。
- ・電源インジケーターが赤色に点灯していませんか?
→ ミュート状態になっています。ミュートを解除してください。
- ・AF レベルボリュームノブが最小になっていませんか?

11ページの「使いかた」を参照ください。

ATW-R1700 の確認

- ・接続機器のコードが外れていませんか?
9ページの「接続のしかた」を参照ください。
- ・モニター出力レベルボリュームノブが最小になっていませんか?
- ・音声出力レベル切替スイッチが最適ですか?
- ・デュアルモノ、バランスの設定が間違っていないですか?

10ページの「使いかた」を参照ください。

- ・レシーバーの受信インジケーターが点灯していますか?
→ ペアリングが完了していない可能性があります。
もう一度、ペアリングを行ってください。

12ページの「ペアリングを行う」を参照ください。

外部機器の確認

- ・レシーバーからのコードが外れていませんか?
- ・接続機器のボリュームが最小になっていませんか?

テクニカルデータ

システム仕様

運用電波帯域	: 2.4GHz ISM バンド
オーディオダイナミックレンジ	: 109dB
歪率	: 0.05% 以下
通信距離	: 半径 30m、直径 60m (見通し時、妨害電波がない場合)
動作温度範囲	: 0 ~ 40℃
オーディオ周波数特性	: 20 ~ 20,000Hz
オーディオサンプリング	: 24bit / 48kHz

レシーバー ATW-R1700

受信方式	: 自動チャンネル設定方式
最大オーディオ出力レベル	: +6dBV (φ3.5mm TRS バランス) 0dBV (φ3.5mm デュアルモノ)
モニター出力レベル	: 70mW+70mW (φ3.5mm TRS 32Ω時)
内蔵電池	: 3.7V 専用リチウムイオン電池
電池寿命	: 約 12 時間 *使用時の温度により異なります
電池充電時間	: 約 4 時間 30 分 *使用時の温度により異なります
充電温度範囲	: 5 ~ 35℃
外形寸法	: H91.4×W56×D27.8mm
質量	: 約 105g
付属品	: レシーバーホルダー、AC アダプター AD-SR0505A0(USB タイプ)、 アンテナ 2 本、USB ケーブル、φ3.5mmステレオケーブル (AT8349)、 φ3.5mm-XLR ピンオス (AT8350)

2 ピースタイプトランスミッター ATW-T1001J

送信出力	: 10mW
電源	: DC3V (単3形アルカリ乾電池× 2本、または単3形ニッケル水素電池(1900mAh以上)× 2本)
動作時間	: 約6時間 *ご使用になる電池の種類やご使用時の周囲温度により動作時間は異なります
外形寸法	: H107×W70.2×D24.9mm (突起物除く)
質量	: 約100g (電池除く)

マイクロホンタイプトランスミッター ATW-T1002J

送信出力	: 10mW
電源	: DC3V (単3形アルカリ乾電池× 2本、または単3形ニッケル水素電池(1900mAh以上)× 2本)
動作時間	: 約 6 時間 *ご使用になる電池の種類やご使用時の周囲温度により動作時間は異なります
マイクロホン型式	: ダイナミック型 (ハイパーカーディオイド)
外形寸法	: φ50×254.8mm (ヘッド径 × 全長)
質量	: 約 280g (電池除く)
付属品	: マイクホルダー (AT8456a)、変換ネジ (3/8-5/8)

(改良などのため予告なく変更することがあります。)

お問い合わせ先(電話受付/平日9:00~17:30)

製品の仕様・使いかたや修理・部品のご相談は、販売店または当社窓口
およびホームページのサポートまでお願いします。

●お客様相談窓口(製品の仕様・使いかた) ☎0120-773-417

(携帯電話・PHSなどのご利用は 03-6746-0211)

FAX: 042-739-9120 Eメール: support@audio-technica.co.jp

●サービスセンター(修理・部品) ☎0120-887-416

(携帯電話・PHSなどのご利用は 03-6746-0212)

FAX: 042-739-9120 Eメール: servicecenter@audio-technica.co.jp

●ホームページ(サポート)

www.audio-technica.co.jp/atj/support/

修理について

本製品の修理をご依頼される際は、
レシーバーとトランスミッターの両方をお預けください。

アフターサービスについて

本製品をご家庭用として、取扱説明や接続・注意事項に従ったご使用において故障した場合、保証書記載の期間・規定により無料修理をさせていただきます。修理ができない製品の場合は、交換させていただきます。お買い上げの際の領収書またはレシートなどは、保証開始日の確認のために保証書と共に大切に保管し、修理などの際は提示をお願いします。

株式会社 **オーディオテクニカ**

〒194-8666 東京都町田市西成瀬 2-46-1

http://www.audio-technica.co.jp

232305080-01-06

ver.1 2014.07.15

ver.6 2022.06.15